

2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

2026年2月3日 日本瓦斯株式会社



決算のポイント① 26/3期3Q実績(計画比)と見直し

営業利益は計画を上回った。4Qを慎重に見積り、通期営業利益は200億に据え置く

- 粗利は電気が伸びて計画上回った。LPと都市ガスは計画通り。販管費も計画通りにコントロール。
- 通期営業利益200億に変更なし。4Qは気温影響やスライド影響に備えて粗利を慎重に見積る。

(億円)	26/3期(3Q/4-12月)		26/3期 通期計画		ポイント
	計画 (10/28時点)	実績	見直前	見直後	
粗利益	514	519	750	750	
LPガス	339	340	495	493	<ul style="list-style-type: none"> ・3Q: 低気温の影響で家庭用が伸長 ・4Q: 家庭用の販売量、業務用の利幅等を慎重に見積る
電気	40	44	58	62	<ul style="list-style-type: none"> ・3Q: 燃料価格の動きがプラスに作用して収支良化
都市ガス	135	135	197	195	
内、スライドタイムラグ	+2.5	+2.3	+2.5	+0.3	<スライドラグ影響> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに4Q想定▲2.0億を計画に織り込む
販管費	408	409	550	550	
営業利益	106	110	200	200	<ul style="list-style-type: none"> ・3Q: 最高益を更新
純利益	74	76	140	140	
株主還元	-	-	203	203	<ul style="list-style-type: none"> ・25/10月に上限90億円の自社株買入れ枠を設定(詳細P.17)
EPS	68.0円	70.1円	129.6円	129.6円	

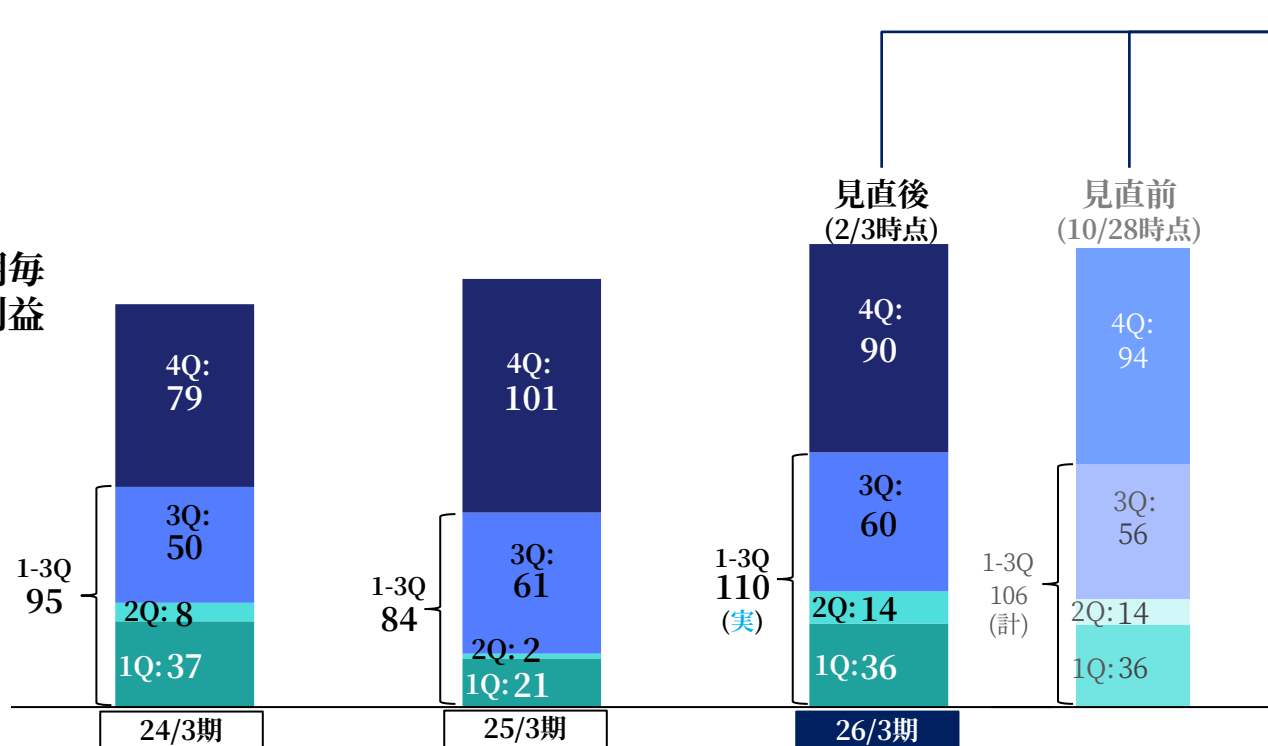
決算のポイント② 26/3期営業利益見通し

営業利益はガス需要期の下期に偏重、4Q見通しに大きな変更なし

- 1-3Qの営業利益は堅調に進捗、過去最高益を更新。
- 4Q営業利益に大きな変更なし。気温影響やスライト[®]影響に備えて、粗利を慎重に見積る。

	24/3期(実)	25/3期(実)	26/3期
営業利益 (億円)	174 最高益	185 最高益	200(計) 最高益

四半期毎
営業利益
(億円)



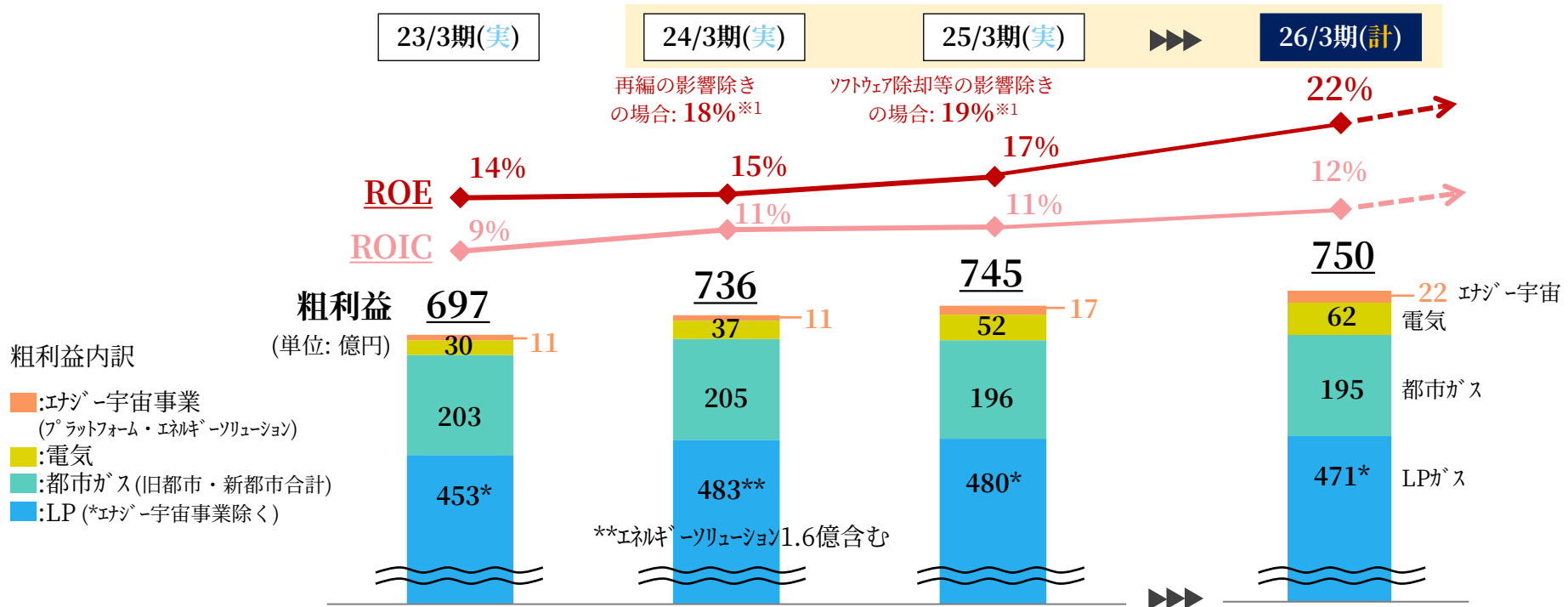
粗利	▲5億
: LPガス	▲3億 ※1
: 電気	±0億
: 都市ガス	▲2億 ※2
販管費	▲1億
: 顧客獲得費	±0億
: その他	▲1億

※1 家庭用の量、業務用の利幅等を慎重に見積る
 ※2 4Qスライト[®]影響を織り込む

決算のポイント③ 3ヶ年計画(24/3~26/3期) 利益の詳細

26/3期は営業利益200億、EPS129.6円を計画。資本最適化しながらROEを向上

■ 26/3期は3ヶ年計画の最終年、営業利益、ROE目標を達成する。次期中計の重要ポイントは、顧客基盤の拡大・拡充を通じた着実な利益成長。



全セグメント計 (億円)

粗利益	697	736	745	750
販管費	546	562	560	550
営業利益	151	174	185	200
純利益	106	108 ^{**2}	115	140
EPS	92.6円	95.6円	104.5円	129.6円

25/3期(実): 純利益115億円はソフトウェア除却損等の特損▲19億を負担後

*1: 特損影響除きROEは対象となる特損(24/3期▲24億、25/3期▲19億)を純利益に単純合算し算出。税金は考慮せず *2: 24/3期の純利益108億円は再編関連の特損▲24億を負担後

決算のポイント④ 3ヶ年計画 利益計画の前提

26/3期は電気、エネルギー宇宙の粗利拡大で成長、LP業務用の減を吸収

(億円)	23/3期 (実)	24/3期 (実)	25/3期 (実)	26/3期 (計)	2Q時計画(10/28時点)からの変更点
粗利(全セグメント合計)	697	736	745	750	
LPガス(機器工事含みエネルギー宇宙除く)	453	483	480	471	・473億→471億
期末顧客数(千件)(括弧内前期比)	973	997(+24)	1,030(+33)	1,070(+40)	
販売量(千トン) 家庭用/業務用	186/121	179/114	178/109	180/105	・3Q実績と4Q気温見通しを踏まえて、家庭用を179千→180千トンに見直す
家庭用利幅(円/kg)	212	233	232	230	・大きな変更なし。3Q売価実績や為替影響等を踏まえ、232→230円/kgに見直す
都市ガス(機器工事含む)	203	205	196	195	・197億→195億(4Qスライド影響▲2億を新たに織り込む)
販売量(千トン) 家庭用・業務用計	378	365	344	338	・3Q実績を踏まえ339→338千トンに見直す(家庭用+1千トン、業務用▲2千トン)
電気	30	37	52	62	・58億→62億
期末顧客数(千件)(括弧内前期比)	320	345(+25)	381(+35)	431(+50)	
販売量(GWh)	1,297	1,427	1,587	1,719	・足元の顧客数を踏まえ、1,723→1,719GWhに見直す
利幅(円/kWh)	2.3	2.6	3.3	3.6	・3Q実績を踏まえ、3.4→3.6円/kWhに見直す
エネルギー宇宙事業(プラットフォーム)	11	11	14	16	
エネルギー宇宙事業(エネルギーソリューション)	-	[1.6*]	3	6	

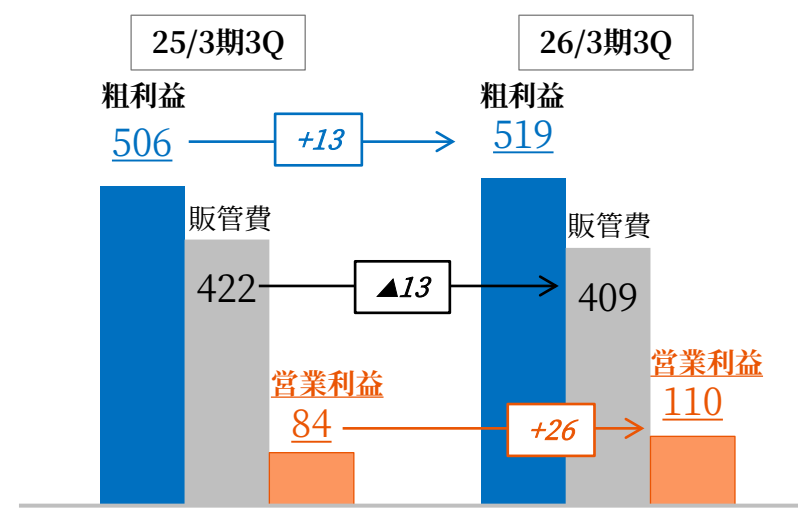
*LPガス粗利に含む

決算の実績① サマリー(25/4-12月) (前期比)

営業利益増(前期比+26億)。粗利は電気が伸びて増、販管費はコスト効率が向上

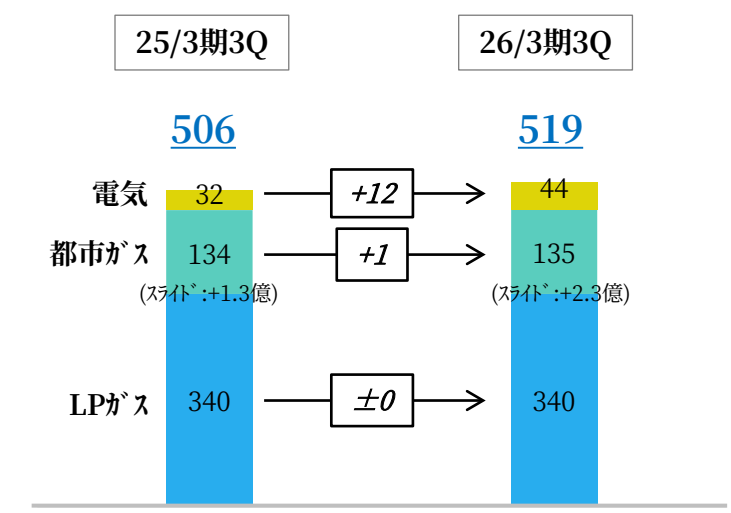
■粗利は電気が利幅拡大と顧客増で伸長。LP家庭用は前期比増、業務用が利幅縮小し減。都市ガスは家庭用・業務用共に前期並。機器・プラットフォーム粗利が伸長。販管費は獲得費の運用を効率化し減。

粗利益/販管費/営業利益 (億円*)



粗利益内訳 (億円*)

*実数の単位未満は端数処理



全コスト合計 (億円)	25/3期 (3Q/4-12月)	26/3期 (3Q/4-12月)	増減	ポイント
粗利益	506	519	+13	
販管費	422	409	▲13	・投資効率向上に向けて顧客獲得費の運用を効率化(前期比▲17億)
営業利益	84	110	+26	
販売量(千ト) LPガス	192	192	0	・家庭用は顧客数増により伸長。業務用は低採算の取引を見直し減
都市ガス	233	227	▲6	・業務用が減、入札案件の減少や設備の省エネ化が影響
電気(GWh)	1,103	1,212	+109	・顧客数増で伸長。単位消費量は微増

決算の実績② 販管費明細

1-3Q実績は概ね計画通り。通期計画は550億に据え置く

■ 1-3Q実績は概ね計画通り。顧客獲得費は計画以下にコントロール。手数料や修繕費がやや計画を上回った一方、IT費用等は計画以下に抑えた。通期計画550億に変更なし。

*実数の単位未満は端数処理。進捗(%)は億円表示処理後で算出

販管費明細 (億円)	26/3期		進捗 *対通期計	ポイント	25/3期	
	(通期計)	(3Q実)			(通期実)	(3Q実)
1. 人件費	148	111	75%	昇給率は4.5%。従業員あたりを増やす方針	141	107
2. 減価償却費 (*i)	82	61	74%		83	62
3. 顧客獲得費用 (*ii)	50	35	70%	通期は投資回収期間の短縮に向けてコスト運用を効率化し前期比▲14億を計画	64	52
4. IT費用	44	33	75%	計画比▲1億。2Qからシステム保守などの内製化を進めて業務効率化し経費を削減	49	37
5. 手数料等 (*iii)	48	38	79%	計画比+1億。外部委託コストが増	48	36
6. ガス関連機材等	36	27	75%		36	28
7. ガスボンベ運搬費	34	23	68%	計画比+1億。4Qのガス需要期に費用が偏る	33	22
8. 修繕費用 (*iv)	20	16	80%	計画比+1億。車両や供給設備の修繕を実施	19	14
9. 租税公課・事業税	20	16	80%		20	15
10. 通信費 (*v)	11	8	73%		11	9
11. 広告宣伝費	11	7	64%	一部コストが4Qに期ずれし計画比▲1億。通期見通しに変更なし	9	7
12. 旅費交通費	7	5	71%		7	5
13. コールセンター	5	4	80%		6	4
14. その他	34	25	74%		34	24
合計	550	409	74%		560	422

(*i) IT関連の償却は「4. IT費用」、のれんの償却は「14. その他」に計上 (*ii) 顧客獲得費用はLPガス、都市ガス、電気に係る営業費用とサービス品の合計 (*iii) 24/3期から「保安・検針費等」を「5. 手数料等」に統合 (*iv) ボンベや機材等の修繕費、ボンベ検査費用 (*v) 顧客とのコミュニケーション費用、スペース蛍通信費用

決算の実績③ LPガス事業(前期比)

粗利前期比横ばい。家庭用が販売量伸びて増、業務用は利幅縮小し減。機器粗利が伸長

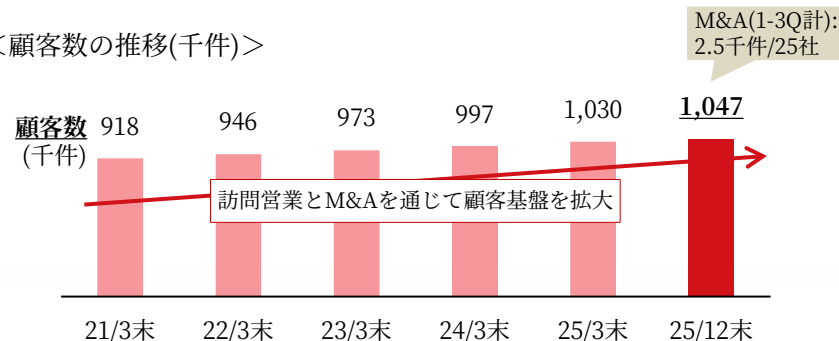
■ 家庭用ガス粗利は前期比増、顧客増で販売量伸長。業務用は原料価格の動きが影響し利幅縮小。機器粗利は増、省エネ型ガス機器の販売が伸長。戸建中心に顧客数増やしながらか顧客獲得費を低減。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円表示処理後で算出

LPガス(億円)	25/3期 (3Q/4-12月)	26/3期 (3Q/4-12月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益	340	340	0		493
内、ガス	312	307	▲5	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用は前期比+1億、業務用は同▲6億 利幅: 家庭用、業務用ともに前期比縮小。業務用は原料価格の動きがマイナスに作用した 	447
kgあたり(家庭用+業務用)	163円	160円	▲3円		(家庭用+業務用) 157円
内、プラットフォーム(PF)	11	12	+1		16
内、機器その他(内、エネルギーソリューション)	17(2)	21(3)	+4(+1)	・ハイブリット給湯器や省エネ型ガス給湯器の販売が伸長	30(6)
ガス販売量(千トン)	192	192	0		285
家庭用	113	116	+3	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用: 顧客増で前期比増。単位消費量は前期並 業務用: 低採算の取引減らし前期比減、粗利への影響は限定的 	180
業務用	79	76	▲3		105

LPガス	25/3期 (3Q/4-12月)	26/3期 (3Q/4-12月)	増減
顧客数(千件) (12月末時点)	1,022	1,047	+25
純増数(千件)	25	17	▲8

<顧客数の推移(千件)>



26/3期
通期計画

1,070

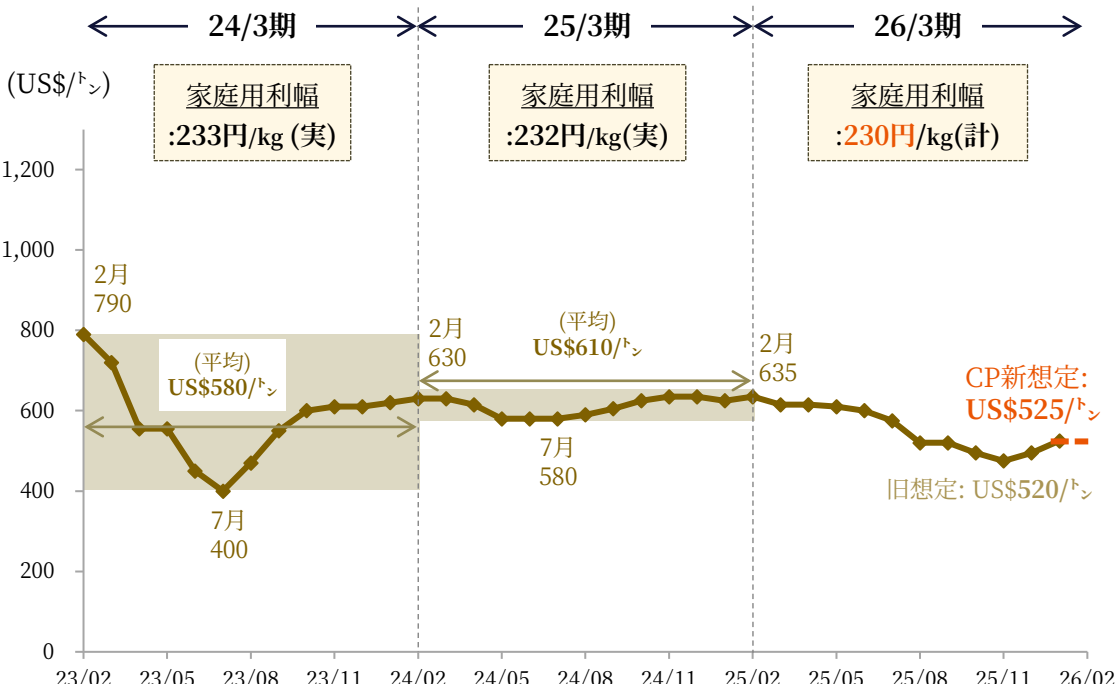
40

LPガス原料価格(CP)の推移

3Q原料価格は概ね想定通り。通期家庭用利幅に大きな変更なし

- 3Q原料価格は概ね想定通り、25/2-11月にかけて緩やかに下落。
- 4Q原価は26/2月までの原料価格を反映、通期家庭用利幅は230円/kgを見込む。

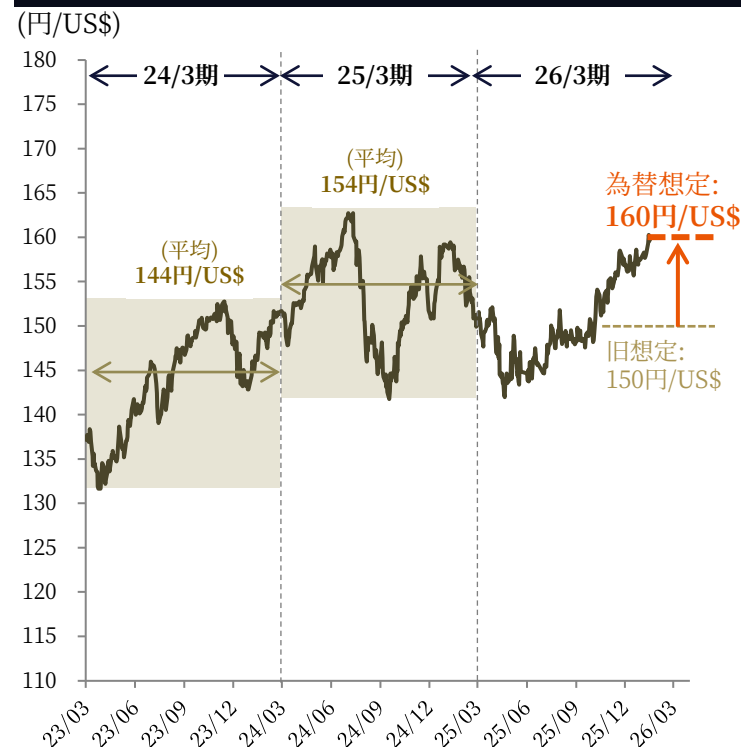
LPガス原料価格(CP)の推移



(US\$/ト)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2023年	590	790	720	555	555	450	400	470	550	600	610	610
2024年	620	630	630	615	580	580	580	590	605	625	635	635
2025年	625	635	615	615	610	600	575	520	495	475	495	525

2026年1月

為替相場(TTS)



- * 1/4は26/3期1-3Qの原価
- * CPは概ね2~3ヶ月後の原価を構成
- * ほぼタイムラグなく販売価格改定可能 (商品の性質上、対象外もあり)

決算の実績④ 電気事業(前期比)

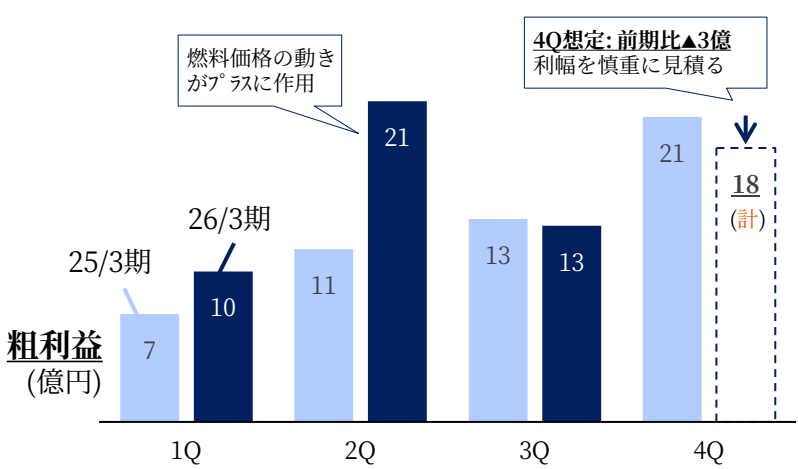
粗利増益、計画も上回った。利幅良化、販売量も伸びた。通期計画58→62億に見直す

■粗利益は前期比+12億。利幅は燃料価格の動きがプラスに作用して良化。顧客数増により販売量伸長。コミュニティ向けの新プランを提供し営業強化。

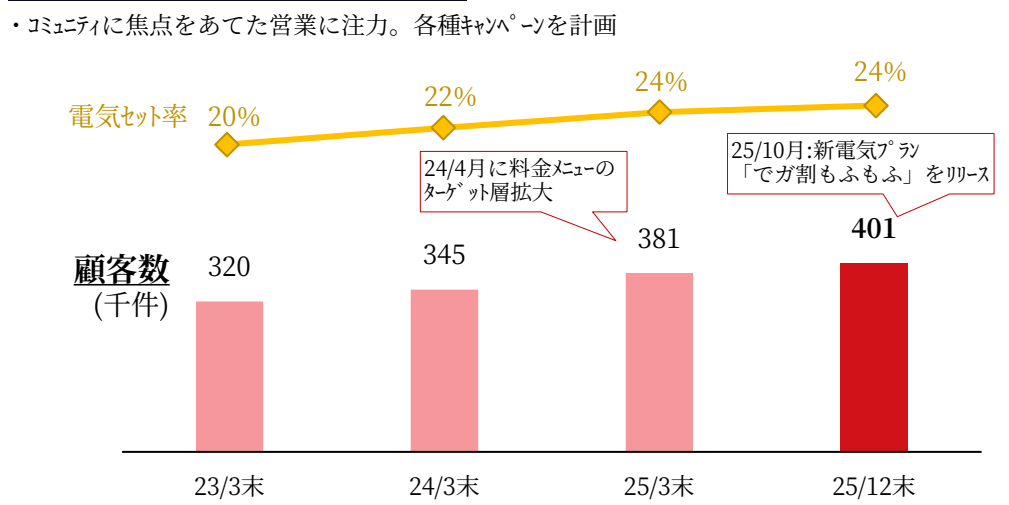
*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円・千件表示処理後で算出

電気	25/3期 (3Q/4-12月)	26/3期 (3Q/4-12月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益(億円)	32	44	+12	<ul style="list-style-type: none"> 粗利: 前期比+12億、計画比+4億 利幅: 3Q実績を踏まえ、通期で3.4円→3.6円/kwhに見直す 	62
kWhあたり	2.9円	3.7円	+0.8円		3.6円
顧客数(千件) (12月末時点)	374	401	+27	<ul style="list-style-type: none"> 電気セット率: 24%(前期比+1%) 25/10月にペットコミュニティに向けた新電気プラン「でガ割もふもふ」をリリース 	431
純増数(千件)	29	20	▲9		50
電気販売量(GWh)	1,103	1,212	+109	顧客数の増加により伸長。単位消費量は前期比微増	1,719

四半期毎の粗利(前期比)



顧客数の推移



決算の実績⑤ 都市ガス事業(前期比)

粗利増益。ガス粗利は前期並、機器粗利が増。顧客数は順調に増加

■粗利は、家庭用・業務用ともに前期並。機器粗利が増、省エネ型ガス機器の販売が伸びた。顧客数は、解約数が減少し今期からプラスに転じた。スポットなどのコミュニティ向け営業が好調。

*実数の単位未満は端数処理 *増減は億円表示処理後で算出

都市ガス(億円)	25/3期 (3Q/4-12月)	26/3期 (3Q/4-12月)	増減	ポイント	26/3期 通期計画
粗利益	134	135	+1		195
内、ガス	119	119	0		172
内、スライムタイム	+1.3	+2.3	+1	<ul style="list-style-type: none"> 3Q(4-12月)スライムタイム影響は想定比▲0.2億 4Q(1-3月)想定▲2億を通期計画に新たに織り込む 	+0.3
内、託送収益等	7	7	0		11
内、機器・工事等	8	9	+1		12
ガス販売量(千ト)	233	227	▲6		338
家庭用	91	93	+2	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用: 顧客数増により前期比増 業務用: 入札案件の減少や設備の省エネ化が影響し前期比減 	151
業務用	142	134	▲8		187
12月末時点の 小売件数/純増数(千件)	588/▲13	603/+13	+15/+26	<p><顧客数の推移(千件)></p>	610/+20
内、旧都市	388/+2	391/+2	+3/0		394/+5
内、新都市	200/▲15	212/+11	+12/+26		216/+15

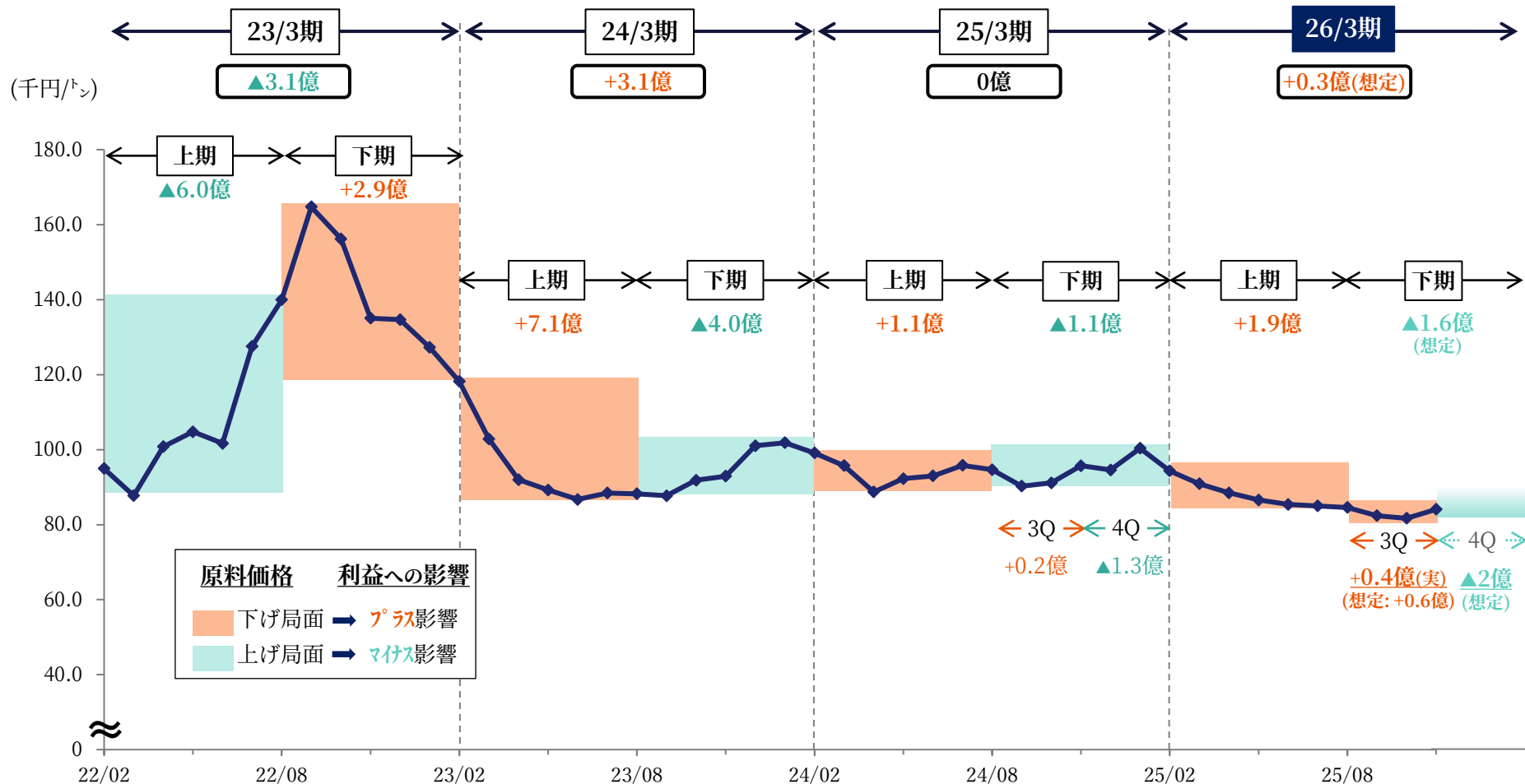
都市ガス原料費調整(スライドタイムラグ)の影響

3Q(4-12月)スライド影響は+2.3億。新たに4Q(1-3月)想定▲2億を通期計画に織り込む

■ 4Q(1-3月)の原料価格は小幅な動きを想定。通期スライド影響は+0.3億を見込む。

LNG原料価格(CIF)*の推移

*CIF: 日本に輸入されるLNGの平均価格



決算の実績⑥ エネルギー宇宙事業

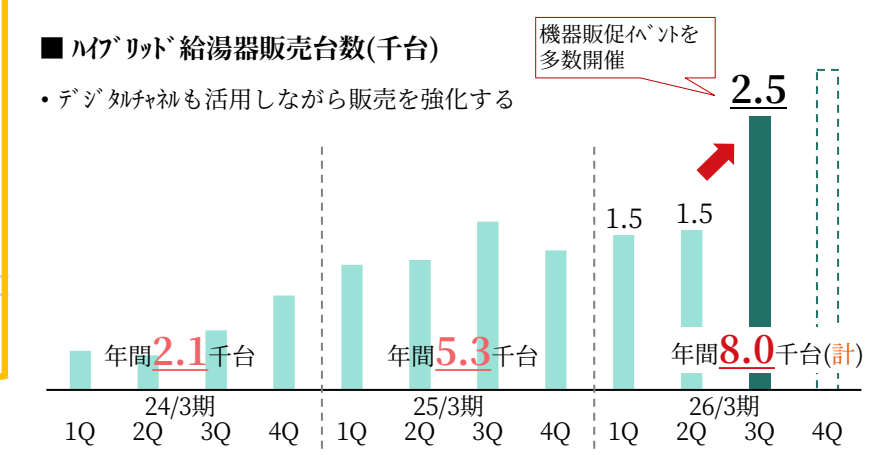
概ね計画通り。保安と工事プラットフォームが着実に拡大。エネルギーはハイブリッド給湯器販売を加速

- プラットフォーム(PF): 保安PFは都市ガスの受託エリア拡大して伸長。工事PFはM&Aにより外部受託を拡大。
- エネルギーソリューション: ハイブリッド給湯器の1-3Q販売台数は前期比+1.5千台。機器販売全体の採算性も向上。

プラットフォーム(億円)	25/3期	26/3期	
	(3Q実)	(3Q実)	(通期計)
粗利益	10.5	11.8	16
1). LPG託送 (スペース缶、充填・配送、新保安PF)	3.4	5.0	6
2). 新都市PF、PF77、工事PF等	7.1	6.8	10

エネルギーソリューション(億円)	25/3期	26/3期	
	(3Q実)	(3Q実)	(通期計)
粗利益	2.2	3.5	6
ハイブリッド給湯器(台)	4千	5.5千	8千

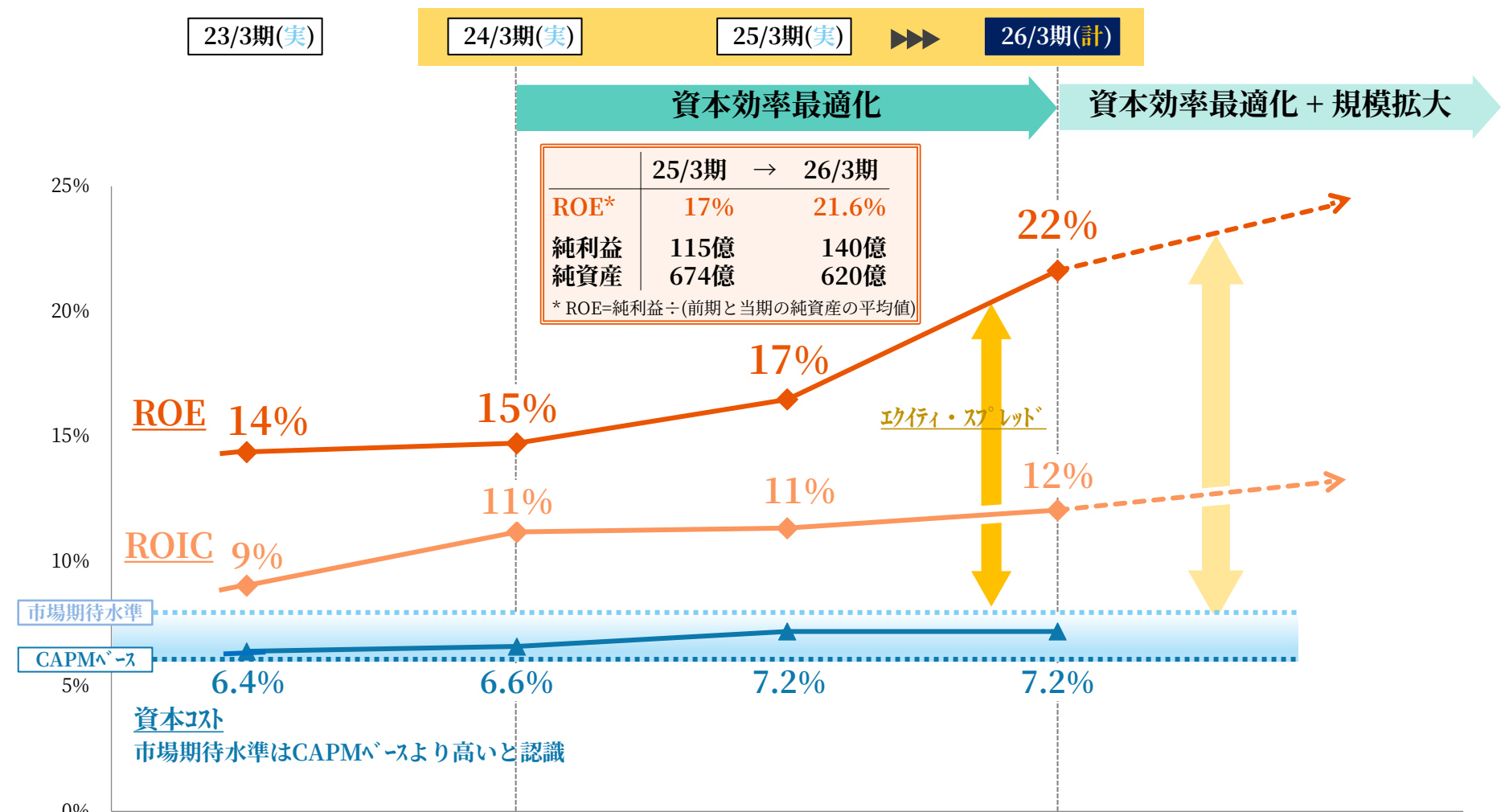
- ### ポイント
- スペース缶・充填・配送
 - 競合他社での利用が徐々に拡大
 - 新保安PF
 - 計画通り。都市ガス向け保安の対応エリア拡大、LP他社の保安受託を徐々に拡大
 - 工事PF
 - 26/1月に空調・給排水工事に強みを持つ北斗管工社がグループ入り。外部向け工事を強化する



資本戦略① ROIC・ROEの計画 (24/3期-26/3期)

26/3期はROIC12%、ROE22%を計画

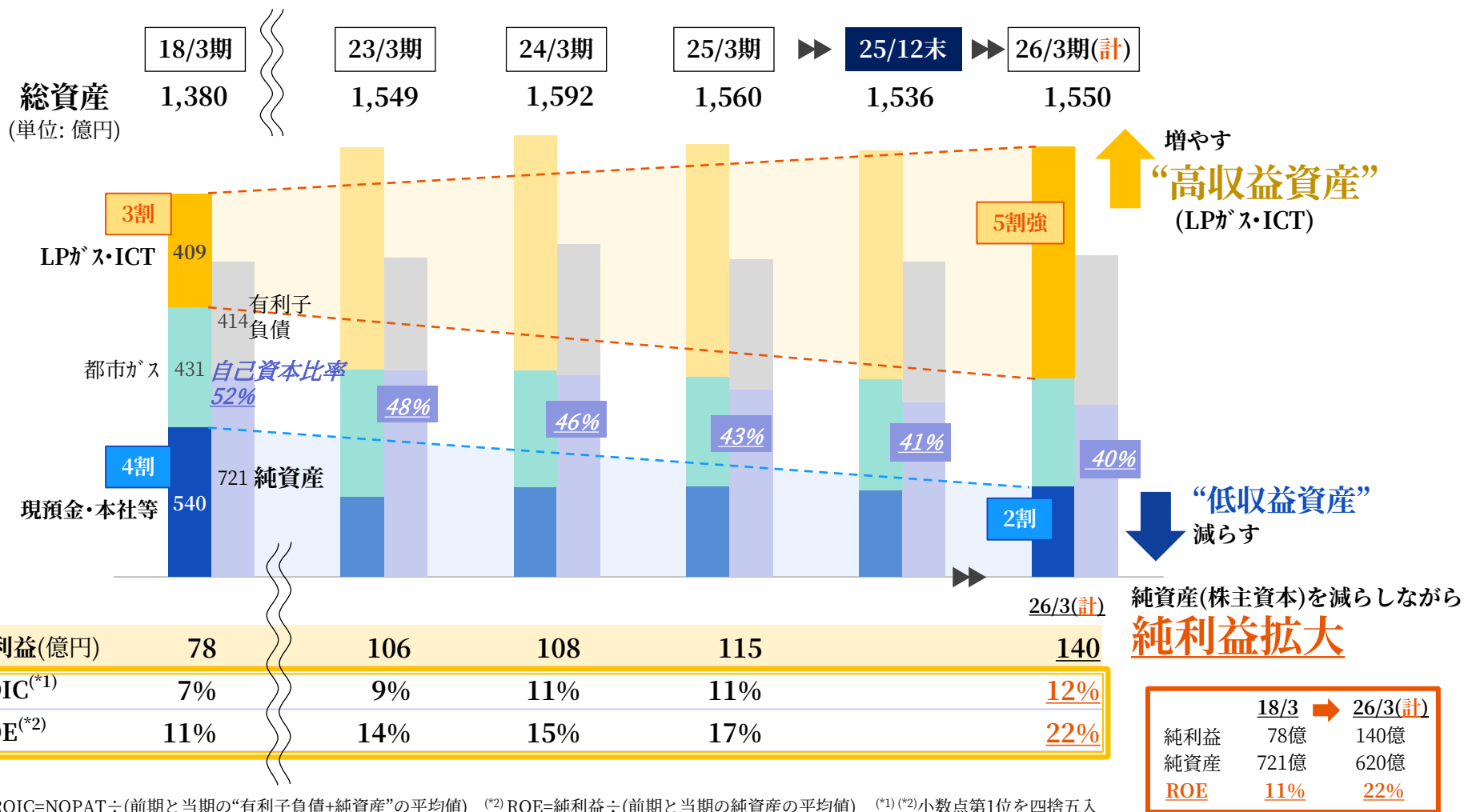
■引き続き、最適資本構成のもとで着実に純利益を増大させるとともに、資本コストの低減を図り企業価値を向上させる。



資本戦略② B/S

低収益資産から高収益資産への入れ替えを進めて、資産規模を大きく変えずROICを向上

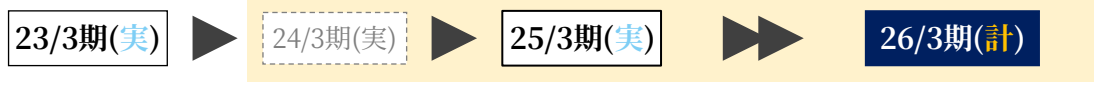
■ B/Sコントロールにより資産収益性を高めている。不稼働資産を縮減しつつ、収益の柱となるLPガス・ICTへの投資を積み増してきた。



資本戦略③ 資本調達(自己資本比率)最適化

自己資本比率を40%に引き下げる。3年間で資産規模は変えず、資本構成を最適化

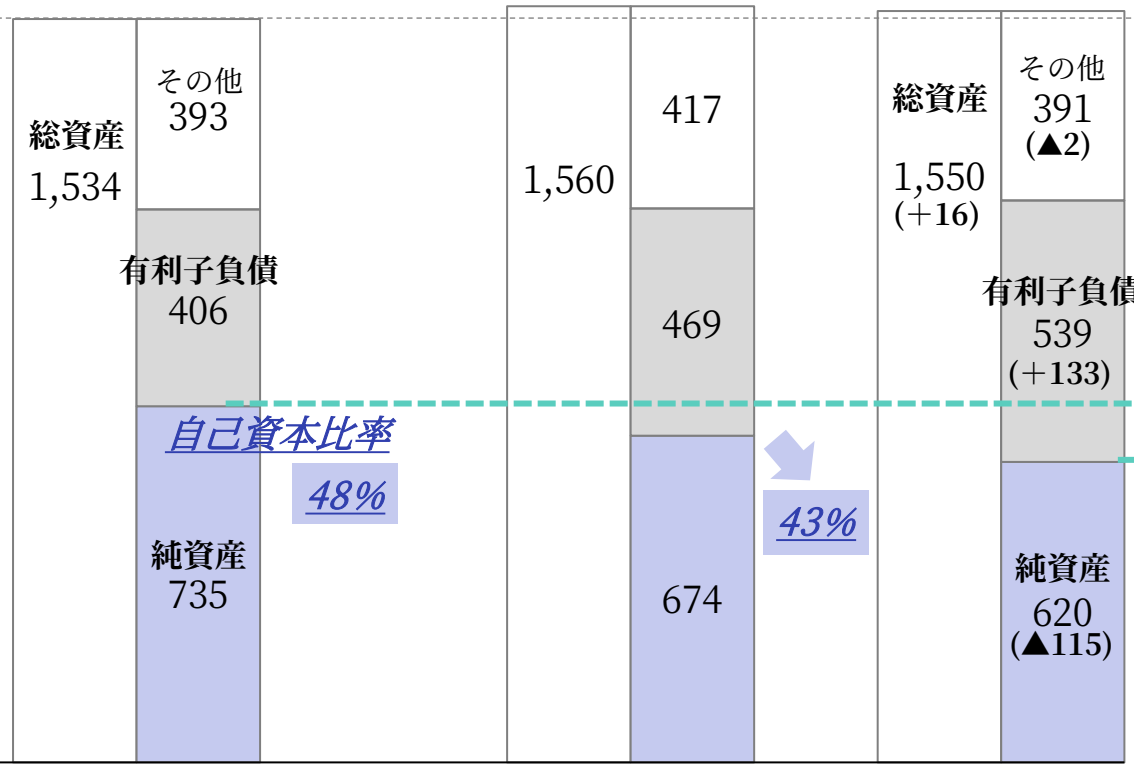
■ 3年間で自己資本比率を48%→40%に引き下げて最適化する。所要自己資本の減少に伴う不必要な株主資本は還元する。



※23/3期の数字は都市ガス収益認識基準適用前。短信(収益認識基準ベース)の数値と異なる。

※括弧内の数字は23/3期比

(単位: 億円)



資本最適化による還元

- 資産規模変えず、自己資本比率を48%→40%に引き下げる
- ↓
- 所要自己資本は減少
735億 - 620億 = **115億**
- ↓
- 不必要な株主資本は還元する
(総還元性向**100%超**)

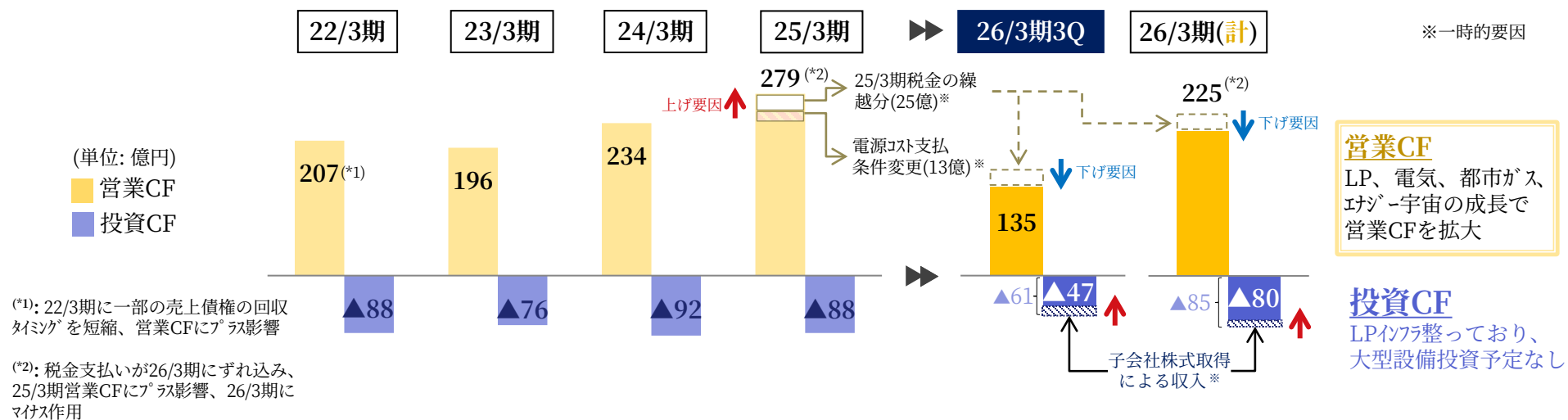
115億 (還元額)

自己資本比率最適化
48% → 40%

資本戦略④ Cash Flow

26/3期の営業CFは前期のプラス影響が解消し減。投資CFは大規模インフラ投資の予定なし

■ 1-3Q営業CFは前期比▲19億、前期の税金支払いが今期にずれ込み営業CFにマイナス作用。通期は投資CFを▲100億→▲80億に見直す。子会社株式取得によるキャッシュ収入を織り込む。



FCF	+119	+120	+142	+191	+88	+145
財務CF	▲74	▲161	▲87	▲184	▲113	▲145

投資内訳(億円)	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期3Q	26/3期(計)
LPG	34	16	25	24	16	27 ▲40 (償却)
内、LP 商圏買収	内、3	3	5	11	4	内、10 内、▲9
ICT	21	29	30	21	10	13 ▲17
旧都市	43	33	41	45	35	45 ▲52
その他(投資有価証券等)	▲10 [*]	▲2 [*]	▲5 [*]	▲2 [*]	▲14 [*]	▲5 [*] -

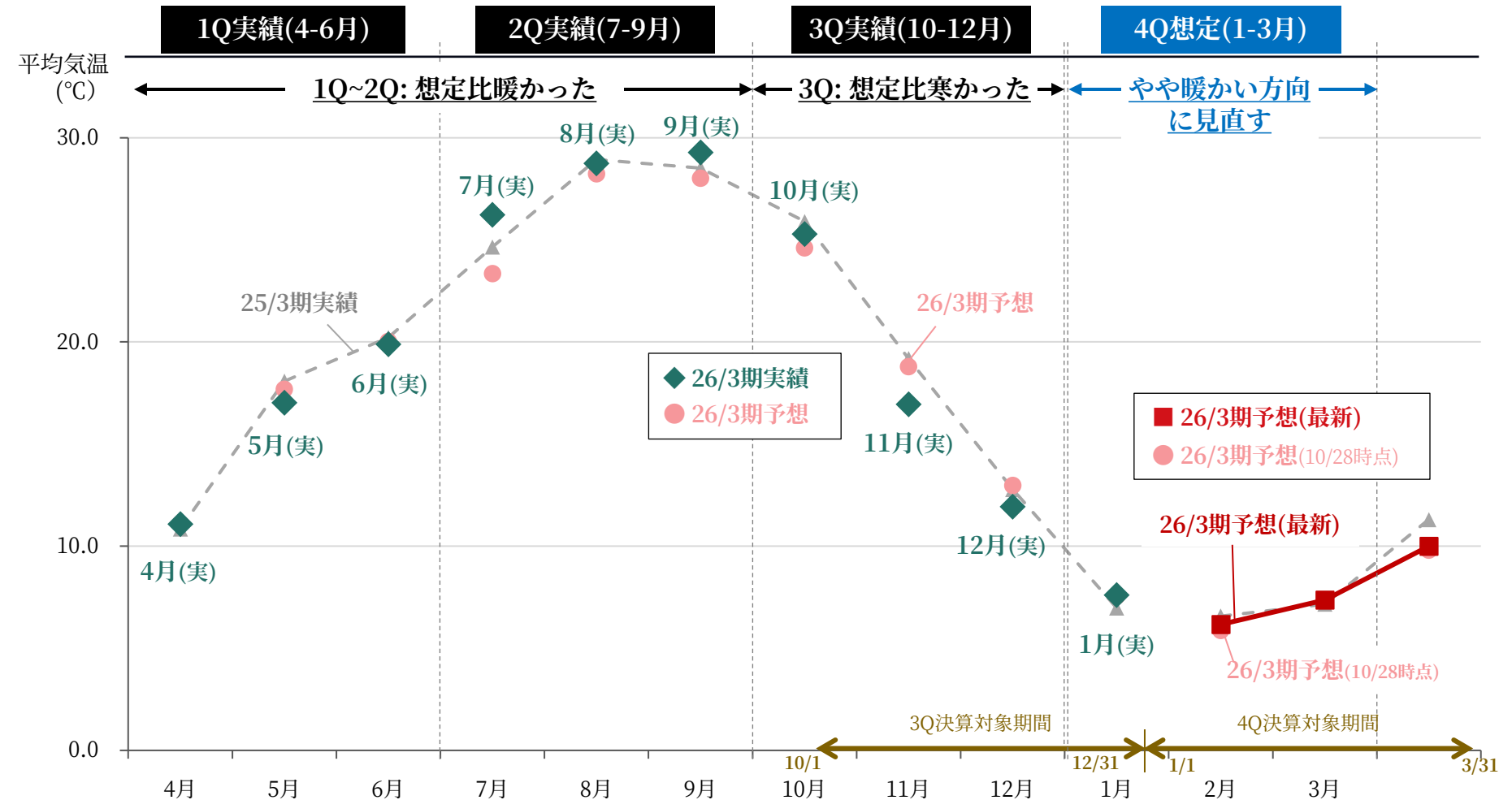
✓LPG: M&A投資は必要に応じて積み増す
✓ICT: 新規投資は漸減、25/3期からは運用フェーズへ

(*ママイナス表記はキャッシュフローにプラス)

平均気温

3Q(10-12月)は想定より寒い気温となった。4Q(1-3月)想定はやや暖かい方向に見直す

- 3Q気温は想定比で低い気温となり、家庭用ガス販売量に追い風となった。
- 4Q気温は2Q想定比やや暖かい方向に見直す。単位消費量は感応度の想定より慎重に見積る。



(*)26/3期の気温予想は、専門情報機関の情報に基づき当社作成。

(*)2:気温実績は東京都の平均気温(参照元:気象庁ホームページ)

26/3期の利益計画詳細

4Q: LPは家庭用の量と業務用の利幅を、都市ガスはスライド影響を慎重に見積る

	上期 (4-9月)			下期 (10-3月)			通期計画		
	25/3 (実)	26/3 (実)	コメント	25/3 (実)	26/3(計)		26/3(計)		
					見直前	見直後	見直前	見直後	
LPガス(家庭用)					(10/28発表)	(2/3発表)		(10/28発表)	(2/3発表)
粗利益(億円)	172	173		243	241	241		414	414
販売量(千ト)	65	65		113	114	115	・家庭用利幅は大きく変更せず。CP想定はUS\$525/ト、為替は160円/US\$とする	179	180
利幅(円/kg)	266円	265円		214円	213円	211円		232円	230円
単位消費量(kg/件)	76kg	75kg	・高気温影響で伸びず	132kg	128kg	130kg	・3Q: 想定比寒い気温となり伸びた	203kg	205kg
LPガス(業務用)									
粗利益(億円)	17	13	・原料の動きがマイナスに作用して利幅縮小	23	21	20	・4Q: 原料の動きを踏まえ利幅縮小を見込む	34	33
販売量(千ト)	52	49		57	56	56		105	105
都市ガス									
粗利益(億円)	73	73		101	102	99	・4Q: 新たにスライドマイナス影響▲2億を織り込む	175	172
販売量(千ト)	147	142	・業務用が伸びず	197	197	196		339	338
電気(主に家庭用)									
粗利益(億円)	19	31		33	27	31		58	62
販売量(GWh)	717	811	・顧客増により伸長	870	912	908		1,723	1,719
利幅(円/kWh)	2.6円	3.8円	・燃料価格の動きがプラスに作用し利幅良化	3.9円	3.0円	3.4円	・3Q: 燃料価格の動きがプラスに作用し利幅良化	3.4円	3.6円